

授業科目 公衆栄養学 I

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	健康	
	開講時期	後期	必修選択	必修	
	単位数	2	時間数	30	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○				
【概要・一般目標：G10】					
<p>公衆栄養学 I、II を通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学 I では、日本を中心に、(1) 公衆栄養学の概念と枠組みと計画・実施・評価の進め方、(2) 社会における栄養問題の実態把握、(3) 公衆栄養活動の基盤としての組織、制度、法規、(4) 主要な栄養政策や栄養プログラムについて理解する。</p>					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆栄養学の概念について説明する。 2. 日本の健康・栄養問題の現状と課題についてデータから読み取る。 3. 日本の栄養政策について（特に法・制度基盤、主要計画、食事摂取基準、国民健康・栄養調査など）概要を説明する。 4. 地域栄養プログラムのイメージをもつ。 5. 諸外国の健康・栄養課題と対策、政策について概要を説明する。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	公衆栄養学の概念			1	講義
2	日本の健康・栄養問題の現状と課題 1 社会環境、健康状態、食事、食生活、食環境の変化			2	講義
3	日本の健康・栄養問題の現状と課題 2 国民健康栄養調査からみた健康状態、食事、食生活の現状			2	講義
4	日本の栄養政策 1 公衆栄養活動の歴史、管理栄養士・栄養士制度			3	講義
5	日本の栄養政策 2 公衆栄養関連法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法等）			3	講義
6	日本の栄養政策 3 健康増進基本計画			3	講義
7	日本の栄養政策 4 国民健康・栄養調査			3	講義
8	日本の栄養政策 5 指針、ツール（食生活指針、食事バランスガイド）			3	講義
9	日本の栄養政策 6 食事摂取基準（基本）			3	講義・演習
10	日本の栄養政策 7 食事摂取基準（集団への活用）			3	講義・演習
11	自治体の公衆栄養活動：県・保健所、市町村			4	講義
12	地域での公衆栄養活動：産業保健			4	講義
13	諸外国の栄養課題と対策 1 先進国			5	講義
14	諸外国の栄養課題と対策 2 開発途上国			5	講義
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		公衆栄養学	田中平三他	南江堂	3,000 円
		国民健康・栄養の現状 最新版	健康・栄養情報研究会	第一出版	最新版
		日本人の食事摂取基準 2010 年版	厚生労働省	第一出版	
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席、筆記試験		【履修上の留意点】			